

千の風になって

校長 武井 正明

13日は早く迎えに来いと言われていたようで、朝早く自宅を出た。

私の家の墓は角田山の麓にある。大きな蠟燭が入口の目印だ。

墓掃除は、いつも親父の仕事だった。親父が車の運転を止めてからは、お盆前に妻がやってくれていた。

本当に家のことをやってこなかった。この歳になって初めて墓掃除をするとは恥ずかしい限りである。

墓を磨いていると親父の背中を流しているような気分になった。おい、もっとしっかり磨いてくれ…。

家に戻り、今度は久々に家のワックス掛けをすることにした。

もう10年以上やっていなかった。今年は我が家にとって大きな節目の年となっている。もう少し、この家に頑張ってもらうためにも、と決意した。

親父が生活していた1階のワックスを掛ける。

雨が続いて、かなり涼しい日が続いたが、また暑さが戻ってきた。

ふと、いい風が吹く。

冷房をつけたがらなかった親父が「日中は意外といい風が吹くんだよね。よっぽど涼しい」と言っていたのを思い出した。あれは言い訳ではなく、本当だったんだ。

千昌夫の「星影のワルツ」「北国の春」村田英雄の「夫婦春秋」が好きで、生前よく歌っていたが、晩年は秋川雅史の「千の風になって」をCDに合わせてよく歌っていた…。

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 死んでなんかいません

千の風に

千の風になって

あの大きな空を

吹きわたっています

吉中の皆さん、例年よりも長いお盆休みがまもなく終わります。

お家の方々は、一足先にお仕事再開。

皆さんは、まだ少し夏休みが残っています。

宿題はもう終わっていますか？

まだ残る夏休み、それぞれの時間を有意義にすごしてくださいね。